新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

私は新聞記者の仕事の話を聞いて、初耳だったことが多く、聞いていて新鮮でした。新聞は、ただ事件や事故など、元々あることをただ記事にするだけだと思っていたけど、直接自分の足で現場へ行き、感じたことや取材したことを書いていると知って、大変だけど、その分読者に、より現実みのある記事を届けることができるんだなと思いました。私はあまり新聞を読まないので、まずはきに取ってだけでも読んでみたいと思いました。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

今日早川保夫さんの講演を聞いて、新聞記者の仕事は自分が思っていたよりも楽しくて面白そうだなと思いました。いろんな場所に足を運んで現地の様子を見たり、いろんな人のところに取材をしにいったりと大変そうながらもすごくやりがいがあって、反響があったときには嬉しさが得られるような仕事なんだなというふうに自分の中での認識が変化しました。でも新聞記者は自分が興味ないことや知識のないことに関しても取材をしなければいけないので、何事にも興味を示していかないといけないのだなと思いました。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

新聞に書いている内容とかを聞いているとおもしろい話していてすごいおもしろかったけど、いざ自分で読むとなると文字はいっぱいでなるなと思いました。でもおもしろい話が気になるので、これから、少しずつでも読んでいけたらなあと思いました。僕の家は神戸新聞だけど、しっかりした記事を見たいので読売新聞ほしいです。ネットやSNSの情報がやっぱり危ないかもしれないというのが今回の講演でわかりました。これからは、正確な情報を得たい時は、できるだけ新聞から情報を得れるようにしていきたいです。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

しっの自分の専門のことを取材しているのかなと思っていたけど、話を聞くと、色々なジャンルの取材をしていて、とても大変なんだなと思いました。色んなジャンルの取材をされていたので知識がいろいろ、知識がつきそうだなと思いました。歴史的瞬間やスクープに関われることはすごいことで楽しそうだなと思いました。また、転勤がとても多くてびっくりしました。家で新聞を取っているけど、あまり読まないので、今日話を聞いて様々な知識を取り入れられるから読んでみようかなと思いました。

「新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

新聞の記事を1つ書くのに必要な時間や苦労をきいて、とても大変なお仕事だなあと思いました。
普段何気なく手に取る新聞もこれからは、書いた人が何を伝えたくて書いてるのだろと考えて読めば、これまでとはまた違った新聞の楽しみ方ができるのではないかなと思いました。
今日聞かせていただいたお話を知識としてしっかりと心に留めておきたいです。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

今日、"新聞記者の仕事とは"の講演を聞いて新聞記者は転勤が多い事を知りました。全国各地に新聞記者がいるのでいろいろな取材をしていることを知りました。取材の方法や新聞ができるまでの成り行き、時間などを聞きました。1枚の新聞を作るのに1000人以上の人が関わっていることを知ってびっくりしました。何をするにしても基礎知識をつけておこうと思いました

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

今日、新聞記者さんの講演を聞いて、取材の方法が何個もあることを知りました。事件の速報、深掘りしたい報道などの時など分けていました。新聞のニュースはインターネットよりも正確な情報だなと話を聞いていて分かったので少しでも見てみたいと思いました。紙一面にたくさんのニュースがのっている、て効率が良いと感じたので見たいと思います

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

普段、あまり新聞を読まないのですが、記事ができる過程を知れてすごく面白かったし、今度じっくり読んでみたいなと思いました。30分～1ケ月かけて記事を作ると聞いて驚きました。たくさんの時間をかけたのにひはんされたりするのは辛いだろうと思いました。間違った情報を伝えることはできないし、事件や事故、災害の時は正確かつ一速く多くの人に情報を伝えたりしないといけないと思うのですごく責任感が大きい仕事だろうなとお話を聞いて思いました。"今になって後悔することも多い"とおっしゃっていたので後悔しないようにコツコツがんばろうと思います。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

毎朝届けられている新聞がどのように作られているのかを知ることができてとてもおもしろかったです。今までは日曜日のうすい記事やテレビ番組表や4コマまんがしか見ていなかったけどこれからは少しずつ本編の方も読むようにしてみたいなと改めて思えるいい機会だと思いました。早速家に帰ったら今日の分の新聞を見てみたいと思います。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

新聞記者の仕事はとても大変で、転勤が多いんだということが分かりました。でも早川さんの話を聞いていた限り、とてもやりがいのある仕事のようだったので、新聞記者という仕事に少し興味がわきました。私はあまり新聞を読まないのですが、これを起に今日から読んでみようと思いました。学校の廊下に置かれてある新聞も、また読んでみます。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

私はいつもニュースを見るときは新聞よりネットニュースを見ているけど，ネットニュースは誤った情報や記事を書いた人の主観が入ってしまっているので，これからはデスクなどによって公正に正しい情報が書かれている新聞を読むべきだと思った。たくさんのことに興味や関心をもち，そこで学んだことをこれからの生活に生かしていきたいと思った。12回も転勤をされているということには驚いたが，色々な地域のことを知ることができるのはおもしろそうだと思った。受験や就職などのためにも，時事のことや世間のことにもっと目を向けるべきだと思った。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

普段聞くことがない記者の仕事について聞くことができて良かったと思う。記者は色々なジャンルに興味をもって仕事をしないといけないので大変なことだと思う。でも知識が多方面に広がるし良いこともたくさんと思うし視点が変わってきそう。またいろんな人と出会って取材をするから人脈も増えてコミュニケーション能力も上がりそう。言葉のレパートリーも上達しそう。1日分の新聞を作るのに何百人もの人（記者）が関わって何日もかけて作成していることに尊敬したしすごいことだなと思った。これからはもっと多く新聞を読もうと思った。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

「新聞記者の仕事とは」という話を聞いて、本当に忙しい仕事なんだなと思いました。休みが週に2回あるとはいえ、情報を見つけたらすぐにかけつけて取材、深く掘りさげたいことはしか月もかけて取材するなど、徹底ぶりがすごいと思います。でも、色んなトに届けるものなのでうその情報だったらダメだと思うし、他にもたくさんの新聞社があるので、面白い情報があったら、すぐ行くのは普通のことなのかなと思います。そのために日常的に情報をあさったり、収集していることは仕事への熱意を感じました。

そういう、責任をもたなければならない仕事を何年も続けている早川さんはすごいと思います。私の家では新聞を取っているので見てみようと思います。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

普段新聞を読む機会も見る機会もほぼ無いので、今日の講演を聞いて、新聞のことや新聞記者さんのことなどたくさんのことがわかりました。その記事によって制作期間が全然違っていたり、全国で新聞記者さんが1000人以上いると知ってすごく驚きました。また、今ではトップレベルの人をデビューしたてのときから取材しているから成長を感じることができたり、たくさんの知識を得ることができる新聞記者という仕事はとても魅力的だなと思いました。自分の知識のためにも、新聞を読む習慣をつけていきたいです。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

インターネットが普及してきて、新聞に触れる機会が減ってきている今に、このような講演会を開いてくださりありがとうございました。毎日、いつもとは全く異なる記事の内容をよくかけるなあと小学校のとき、僕はふと思いました。小5あたりからスポーツをし始め、サッカーに興味を示しだしてくると、その時から日本のサッカーリーグのJリーグの事についてかかれているスポーツのところを見るようになりました。そこで、新聞はおもしろいなあ、と感じるようにもなりました。高校生になった今でも、スポーツのところはちょくちょく見ますが、今回の話を聞いていろんなページに手を出してみようかなと思いました。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

早川さんが記者になられてすぐでも長時間取材したり2日間寝ずに取材されていたのを知って体や面でも危険な場所にいることでの精神面もつらかっただろうなと思いました。話を聞いていると短くて2年長くても5年ほどの勤務だと聞いて私はずっと同じ地域の取材をされていると思っていたので驚きました。なれない環境でも正確性と公平性は前提とされているのですごいなと思いました。私は新聞をとっていないので見る機会も少ないですが1つの記事に対する熱量や時間、労力があると思うと見てみたいなと思いました。心のこもったいくつもの記事が毎日入っている新聞はすばらしいものなのかなと思いました。このようなことを知る機会を下さってありがとうございました

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

僕は読売新聞をとっているのにほとんど新聞を読むことはなくそれに読んでもなんの
ためにもならないと思っていました。しかし講演を聞いていてテストでも問題になることを知って
これからはできるだけ読むようにしようと思いました。毎日僕たちの記事がでるのでそれが
読み始めてみます。新聞記者は災害が起こるとその現場へ行って、写真をとったり情報を
集めたりとても大変な人だなと思いました。特に災害の現場なんて常に危険と隣合わせ
なので新聞の1つの記事を書くのにもとても多くの労力がかかっていることを意識して
読もうと思いました。普段新聞記者の話を聞くことなんてないのでとても貴重な経験でした
これからは毎日新聞をよむようにしたいです。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

私は新聞記者をするなら"文章を書くや"があれば良い思っていたけど、
取材などをするときに取材する内容やその人物についての知識もあった
方が良くて、"文章を書くや"以外にもいろいろな勉強が必要なんだとわかり
ました。私も、やりたい仕事のことだけでなく、いろいろな勉強の知識を
つけないといけないなと思いました。朝刊で、きのうの夜ぐらいの出来事が
載っているのを見たことがあって、「そんなにすぐ記事を書けるものなのかな」と
思っていたけど、速報などが入った瞬間取材をして、早いものだと
30分～1時間ぐらいで書くと知って驚きました。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

新聞記事の方から直接話を聞けることはあまり機会がないのですごく興味深かったです。私は親が読んでいる新聞を隣から少し見るぐらいだったのですが、今回の講演を聞いて、もっとちゃんと新聞を読んでみようと思いました。最近は、ネットニュースなどもよく見るのですが、個人的に新聞紙の方が言葉使いもしっかりしていて、信ぴょう性も高いのかなと思いました。私も将来のために語いかなどを高めようと思いました。

新聞記者の仕事とは」（読売新聞姫路支局　早川保夫様）の講演を聞いて

私の祖父が読売新聞を契約していて、遊びに行く毎によくその日の新聞を読んでましたが、早川さんが藤井聡太さんのプロデビューの記事を書いたと知り驚きました。1996年から27年の間で12回の転勤をしていると聞いて、新聞記者はやっぱり大変な仕事なんだなとマイナスな印象を抱きましたが、法隆寺の末寺の法起寺の「ほうきじ」が「ほっきじ」に間違っていることに気づいて記事に載せて会社側が謝罪しているのを見て、仕事はかなり大変だけど、逆の面から見てみるとより多くの人に、間違いを知ってもらったり、知ってもらうことができることを知って、今までより新聞をよく読もうと思いました。　講演ありがとうございました。